

新基地建設反対名護共同センター ニュース

新たな戦前を迎えないために

憲法講演会

五月三日(水)アイム・ユニバースでこのホールで沖縄県憲法普及協会主催による憲法講演会が開催されました。加藤裕介弁護士による国連憲章に違反する安保三文書の危険性、憲法を巡る情勢報告から始まり、「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」の事務局長の宮城英和さんの報告がありました。

二〇二三年に地対艦ミサイルがうるま市の陸自勝連分屯地に配備が決定され、市民の会を立ち上げミサイル配備写真展をうるま市の公民館での十一回開催や反対のポスター張り等勢力的な取り組みの報告でした。

続いて映画「教育と愛国」の監督である齊加尚代さんによる教育の右傾化についての報告でした。二〇〇六年に教育基本法が改悪され、それに伴い教科書検定制、教育委員会制度等が改悪されたことで、教育長を自治体の首長が任命することが可能になりそれに伴い政権に近い教科書の選択も可能になり、愛国と言う軍事思想も可能になり、南西諸島の自衛隊配備と連動しているとの報告でした。



「安保3文書」の危険性

革新懇が講演会

五月一六日(月)に革新懇による「安保3文書」の危険性についての講演会がありました。



講師は

弁護士の仲山忠克氏でした。安保3文書の柱は、国家安全保障戦略・国家防衛戦略・防衛力整備計画の三つの柱からなり、これらは安保体制から生まれたもので、日米間の軍事同盟そのものである。軍事による平和は防衛費総額約四三兆円がその実態である。南西諸島における憲法違反の自衛隊配備やミサイル配備、弾薬庫の建設等戦場化へと進行中です。軍事による平和の仕掛けは、「国が攻撃されたら」から始まり、それはヘルマン・ゲーリン(ナチス・ヒトラーの右腕)の言葉ですが軍事思想家の人々にしっかりと受け継がれ驚愕します。米国による台湾有事の中国敵視論に日本の多数の世論ははまっていて、大変危機的状況です。仲山氏は一人一人が諦めることなくその不条理と闘っていくことが歴史への責任であるといふ力強く呼びかけました。島々からのオンラインによる報告もありました。

追悼・早坂義郎さん

早坂さんには当会の活動への理解をいただき、会報へも何度か執筆をお願いし、沖縄の「声」を届けることが出来ました(略)遠く離れていても、沖縄に連帯し、様々な手法で沖縄を発信する仲間としてこれからもお力をお借りしようかと思っております。ところで、体調不良と言うことで千葉に帰る旨のメールをいただき、健康を案じていました。本当に残念、無念です。早坂さんは人生の後半を沖縄の為に尽力し、激務に耐えてきたのか、と申し訳ない思いもあります。沖縄出身者として、感謝に絶えません。(略)今年には平和ツアーを再開し、また闘いの現場を尋ねる予定です。そこにはもう、早坂さんの姿はないのかと思うと寂しい限りですが、早坂さんの思い、ウチナンチュの思いを受け止め、さらに闘いを進めていきたいと思えます。(東京都)

5.21

平和集会 IN 北谷
11:00~15:00
北谷球場蝶々広場

市民があつまれば工事はとまる！ 非暴力の抗議行動



4月25日 大浦湾 K9護岸前で辺野古工事着工6年に抗議する海上抗議行動が行われました。主催はヘリ基地反対協議会。カヌー35艇、抗議船7隻、総勢65人の参加。通常は平日、安和、塩川から土砂搬入がされるが、当日は、まったく工事はなく、休みの状況でした。警備の海上保安庁のゴムボートの数が20艇近くあり、総勢100人以上の警備体制がとられたが、工事は強行できませんでした。市民が集まれば工事は止まる！そのことを教えた市民の行動でした。